



育兒と暗示

太田 龍 東

近頃、世上に於ける惡癖惡習慣は、だん／＼増長して遂には之れが爲めに、罪惡を犯す者が日々に多くなつた様に思はれる。而して彼等は、この惡むべき罪を犯しながら、其罪を屢重ぬるに従つて、さほど惡しき事とは思はない様になる。のみならず、其殘忍酷薄なる行爲を以て一種の快樂となすに至るのである。茲に至りては、父母の慈

愛も教育者の薰陶も、又宗教家の教も何の役にも立たない事になる。これも其初は、極く些々たる一小癖が不知不識の間に習ひ遂に性となり、かく長ぜし事なるを思はゞ、實に驚くの外はないではないか。

そこで、この最も恐るべき惡癖をかく増長せしめない様にする策を講ずる必要が起る。先づこの惡癖を矯正する任に當るものは果して何人であらふか、言へまでもなく、父母教育者等に相違ない。其内最も力あつてわづかるものは、母親其人である。

予は、其責任者たる父母教育者、殊に母親が兒童を養育するに當つて、最も困難なる惡癖惡習を矯正するに、所謂暗示法なるものを應用せられんことを望むのである。この育兒上に暗示法を用ゐ

る事は、西洋諸國に於ては、近來教育家醫學者の唱道する所であつて、其効果の無害にして有益なる事は、諸大家の實驗のみならず、予が經驗に徴して深く信じて疑はないのである。

然らば其の所謂暗示法なるものを、育兒上に如何に應用すれば可なるか。是れ予が將に説かんとする所である。而してこの問題を説明するに當りて、暗示とは如何なるものであるかを説くに必要があるから、先づ暗示の意義より説明しよう。

暗示の意義

暗示とは、英語の「サヂエスチョン」と云へる譯語にて、羅馬の「サグヂエレ」即ち歸伏せしむる又は告げ知らしむる等の意を持つてゐる語から來たのであるが、今では原語の外に他の意義を有する様になつた。

暗示の定義については學者によつて種々唱へられるが、其重なるもの、一二を示せば、ホールドキン氏は「暗示とは、外より不意に意識内に入ることによつて生ずる現象の一なり」と云び、ピネ氏は「暗示とは、人を觀念によりて影響する事である、暗示の結果は觀念構造の結果である」と云つてゐる。

この暗示は催眠術應用に於ては、甚だ必要なものであつて、催眠術の骨髓とでもいふやうなものである。かの催眠術は只人を眠らすまで、あつて、病氣などを治療するのは、皆暗示の力で治療するのである。(催眠術と暗示との混合す勿れ)

暗示は常に病氣をのみ治療するばかりではない、廣義に於て言へば、吾人日常生活を支配する一大原則であると云ふ事ができる。かく言はゞ不

審をいやく人もあらずが、決してそうではない。

何人に限らず、一旦ある他の觀念が其精神中に侵入する時は、初めはたとへ夫れに多少の反抗する念があるとも、其觀念は直ちに其人の至精神を支配すると云ふ事は、心理學上争ふことの出來ざる事實であつて、又多くの學者の認むる所である。

この暗示を行ふときは、右にいへる如く至精神を支配する事を得る故、之れを行ふ人の意志如何により、種々の現象を呈することが出来る。實際此所に存在せざるものにて、其人をして之れ如く思惟せしめ、又平常己れの信する事の出來ないやうなことで信用せしめ、又普通の教育法にては教育し能はざる程の大惡癖あるものでも、其人をして悔悛の心を起さしめ、又醫師が多年治療することの出來ない難病にて、立どころに恢

復せしめ、其他風俗に於て、習慣に於て、流行に於て、其の善にまれ惡にまれ、人々相互に影響する上に於て、暗示は實に驚くべき効力を有してゐるものである。之れは催眠術に於て多く其効を見る。

この暗示の影響は、日常の生活に於て容易く觀察する事が出来る。例へば人ありて、年若き女に向ひ「貴女は面が非常に今日は赤いですね」と云へば、少女の顔は實際に於て赤くないのであるが、やがて其顔面に赤色を呈するは、往々見る所である。又ある人が酒の話をなせば、好酒家は喉をならし、其他美味の話を聞けば何人にも唾を流すが如きも、吾人のよく見る所である。

凡て此等直接的反射運動の頭腦より來たるものは意志作用を假らずして生ずるものであつて、皆一

種の暗示の結果に外ならない。

暗示を其原因より區別すると他人より與へられたるもの、外物より暗示せられたるもの、自分の觀念より生ずるものとの種別がある。

今ビチーと云へる人が話した面白い例が一つある。

或る所に屠者があつて、重き獸肉を其頭上にあつて懸けやうとして過つて之れを滑らし、爲めに自身の腕を捕へられて、獸肉の代りに其身体をかけた。傍にゐた人々は大に驚き、直ちに之れを鉤より取り下した、其時屠者は既に半死半生の有様で、しきりと呻き聲を發して、さも大怪我をなしたるものゝやうであつた。醫師を招き其身体を檢査せしに、一の負傷だに生ぜず他に何等の異状をも呈してゐない、それに屠者

は今も死ぬ様に呻吟してゐる、不思議であるからよく調べて見れば唯屠者の袖に鉤が刺されたのみにて、何の傷をもしてゐなかつたと云ふ事が知れた。云々

畢竟この屠者の如きは、特にある人からの暗示によらず、外物から負傷の觀念を構造せられたものである。

要するに、暗示とは外より觀念を生ぜしめたものである。この暗示を有效ならしむるには、先づ外部感覺に刺激を與へて印象を呈せしめればならぬ。この印象から觀念となり、其觀念發達してある影象となり、其影象は更に感覺作用を復起せしむるのである。

暗示法

予は暗示法を説くに當り、兒童の癖と云へる事

に就き一言して見よう。

第一、寢小便、親の最も困難するは此寢小便である、この癖は、兒童熟睡の時不知不識の間になすものであつて、これも兒童に特有なる一種の神經病である。括約筋の弱つてゐる爲めに、麻痺の形狀に於て現はるゝ事もあつたが、多くは種々の事情に刺戟されて反射的に起るものである。又心的事情か原因となる事もあつた。此等は暗示で矯正する事が出来る、而して此心事的事情についてリンギール氏は左の如く云てゐる。

(イ)、患者自身の心配、兒童が寢小便する事を父母より責めらるゝを心配し、遂に繼續暗示となり實際小便を惹き起す事がある。

(ロ)、熟睡の度を過せしもの、これは餘り熟睡を深くせし爲め、小便するにも氣附かずして、放

尿するもの、

(ハ)、感覺の鈍くなるもの、寢小便患者は、小便に對する臭氣の感覺が次第に鈍くなるものである。

(ニ)、冷える事、冬のはきは普通の人には小便の度数は増す故、或兒童は冷氣の爲め之れを病むに至る。

第二、ねぼける癖。小兒が「ねぼける」原因は種々あるが、寢る前に強く感情を刺戟するとか、又健康状態が變するとそれが誘因となつてゐる現象を呈し、又食物が不消化物であるとかすると、小兒は「ねぼける」事が往々ある。尙ほ之れが全く癖になつて、何も原因なくとも「ねぼける」やうになる事があつたから、育兒者は大に注意せねばならない。この外嘘をつく癖、爪を噛む癖、盜む癖、よく

泣く癖、學校を嫌ふ癖、鼻をいぢる癖、陰部をいぢる癖等、枚擧に遑あらざる程である。此の諸癖は幼稚の時に矯正しないと、追々増長して遂には社會を害するやうな事になる事もあるから、氣がついたら早速防止するがよい。之れを防止するには所謂暗示が最も效力を有してゐる。之れより進んで暗示の法式を説明する。

暗示の法式に二通りある。第一は覺醒時に行ふ暗示の法式で、第二は睡眠時に行ふ暗示の法式である。

第一、覺醒時に行ふ暗示

之れは、人の覺醒せる時、即ち意識の活動中にあつて、惡難を矯正する目的を以て行ふ暗示にして、父母教育者等の應用して大に效あるものである。凡そ習慣により、悪性となれるものにて、

傳記史記等にある美談の實例などによりて、忍耐勉強は後に大幸福を得る基であるとか、又有徳なる美談等を、中心としたる種々の暗示的教訓により、完全なる善品性となす事の出来るのは、争はれない事實である。

今左に參考の爲め實例を擧げて見よう、ある經驗を有せる教師が、十歳の惡少年を矯正する爲め左の話をせしと。

ある畫工が、美しき小供の畫を寫さうと思ひ、多くの寫眞の中から、世界一番と思はれる程、無邪氣で其上美しい愛嬌溢るゝ如き人相をした、小學生徒の一枚探し出した。其次には、前と反對に極く大惡無道なる人の畫を寫す考へで、世界中第一の大罪惡漢と云はれる人相をしてゐる寫眞を探し出した。所が實に不思議なのは、この最も惡む

べき大罪惡漢は、先きに探し出した所の、彼の最も愛嬌ある無邪氣な相貌を持つてゐた、小學校生徒と全く全一人であると言ふ事である。何んと嘆ずべきの至りではないか。世界でも一番愛らしいと云はれる程の美少年が、世界中第一の惡人と思はれる程の人相と變ずると云ふのは、彼の美少年も其初は顔面の如く、清々とした心であつたに相違ない。それが一度惡心を起し、屢々罪惡を重さぬるに従つて、其面相も心と共に癡惡と變化し、遂にはかくも見るさへ惡むべき人と成り果てたのである。何人でも、心中にある善惡は、其行ふ度數が重なるに従つて、善或は惡の相が、其表面に顯はれるのである。今汝の容貌を見るに、何となく惡心を抱いてゐる様な相貌が表れて居る。故に汝に今の内に其惡心を改め、善心に歸らずば遂に

は二番目の寫眞の如き惡相の人となり。社會の人に惡まるゝ様な人間になるぞよと。繰返し々々教訓せしに、十才なる少年は、全く善良なる少年と變じたとのこと。

又ある殘忍酷薄なる少年があつた、それで次の談をして聞かせた。

昔ある國の王様が、從者を連れて百姓の裝束で民間を密行された。所が食事する事が出來なかつた爲めに、王様も從者も大に餓えたのである。其時恰度金満家の前を通り合した。そこで主人に一度の食を乞ひしに、主人はメンドーだからとて、之れを斷つた。仕方がないので二人は餓えた腹を抱へて、この度は、極く貧乏な百姓の家に入つて一飯の食を乞ふた。すると今度は主婦が厚く之れを招待し、後にも先きにも一片しかない、パンと

肉とを出して之れを二分して與へた。やつとの事

で二人は、餓を凌ぐ事を得たでの禮を述べて其家を去つた。後で主婦は聖書を讀まんとして傍を見し

に、一封の紙包があつた。之れを開きしに、汝に二千圓の賞與を與ふる故、宮内省に申出でよと書

いてある。主婦は何んの事やら解らないが、ともかくと思つて申出でた。出頭して見ると、豈圖ら

んや、夜前の旅人の百姓の國王であつた。つまり二千圓を賞與金として下された。云々

此話を聞いた少年は、今迄の殘忍酷薄なる心を捨て、慈善に富める少年と一變したと云ふ事である。

如斯話を、巧妙に教師或は父母等が、兒童に

教訓的に談話したらば、必ず其効はあるに相違ない。彼の僧侶が、説教なすも畢竟之れと同一主意

である。

この外、悪戯の小供あれば之れに向ひ、悪戯の小兒が遂に天罰を蒙りて變死し、善良なる小兒が神の保護を受けて天災を免れし事を話し、其後に悪は罰せられ、善は賞せられしを説かば、遂に悪戯を改む様になるのである。

第二、睡眠時に行ふ暗示、

この暗示は自然に睡眠せる時、又は將に睡眠せんとせる時に用ゆるもので、第一の覺醒時に於て行ふ暗示よりは、遙に効果は大なるものである。

佛國にて有名なるフアーレー博士は、之れを熱心に研究し、其實験上より報告して、睡眠中の暗示的矯正法を精神病者に施せば、偉大の功を奏するものだと言つてゐる。又其前フロー博士が研究して大に世人の注目を引いたこともある。予も

此點については實驗せしことがあるが、フロアー博士の言は決して偶然でないことが解つた。世の諸賢母よ、之れを實際に試みて其効の大なるを知り給へ。

之れにつき「ドクトル、リロン」氏が其實験より得たる法則なりと云へるものがあるから記す。

若し兒童の稟性に鈍きもの又は怠惰なるものがある時は、催眠術を施さずして、暗示を用ゆるが一番である。兒童をして深く己れを信用せしめ其機を見て、其前額に手を當て、丁寧熱心に吾思ふ所を暗示せよ、若し又其兒童が甚だ執拗にて性悪しきものならば、之れを加ふることに屢々なる時は、如何なる場合にもよく成功して、兒童の惡癖を矯正し温良勤勉ならしむる事が出来る。

之れにて其一斑は伺ふことができる。尙ほ二三の

例を擧げて詳かにせう。

睡眠中の諸癖中寢言を云ふもの、矯正法につき

諸さんに、本人が睡眠前に「今夜、吾は決して寢言は言はない」と、自ら數度胸中にて繰り返して

寢につかすがよい。(これは所謂自己暗示なるもので、時によればこれのみにても其癖を治すこと

ができる)かくて睡眠せば、母親(これをなす

人は母及び乳母の如く兒童と共に寢るやうなもの

に限る)は「今夜から汝は決して寢言はいはない」

——「寢言いふ子はいけないのですよ」——「汝は

よい子だからもう寢言はいひませぬね」などの如

く暗示を與へるのである。時によると眼を醒すこ

とがある。其時には「汝はよく眠ますね」——「眼

をさますではありませぬ」——「妾のいふことを眠

りなから聞くのです」と言ひきかして眠らすので

ある。予は實驗したるに如何なる兒童でも、よく寝るものである。其實験を左に、

三歳になる小兒、夜ひるの別なく始終母の乳房に絶り、夜は特に乳房を口に入れなければ決して眠らないと云ふしまつ。そこである夜、之れは予が傍に居て母をして言はしめた。子供の將に眠らんとする時、子供の耳に母の唇をあて、「汝はお母さんの乳を何時も絶つてはいけない」「わんなに乳をいらふと乳は呑ませませんよ……

…明日から決して乳房に絶るではありません」尙ほこの外其不心得を懇にとき、命ずるが如く諭すが如く、ごく熱心に暗示した。

ところが、翌朝其小供は、母の乳房に以前の如く絶らない、故に其夜も前夜と全様に暗示した。それで全く其癖は止んでしまつた。

其外厭な夢を見る癖、うなされる癖、駢をかく癖、口を開いて眠る癖尙ほ第一の覺醒時に行ふ暗示の場合に擧げたる諸癖及び、諸習慣は多くこの暗示法で矯正する事ができる。それらは前述せし所を以て推察するに足ると思ふから、茲には述べない。

(完)

小供の家庭教育 (承前)

(ハワード嬢談話)

● 獨立の生活 世界各國の婦人中生活のために働くことでは英國人に及ぶものは有りませぬ、身分のある人程生活の爲めに働かざるものでも決して良人に計り頼寄つて居ない、夫れから女子を教育するには必ず獨立して生活し得るやうな方法を講ずる、先づ將來獨立する爲めの第一は何